



# Mitsui V-Net

## Mitsui Volunteer Network Center

### 三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.61

2019年1月1日発行

## 新春のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団  
理事長 八木 厚

あけましておめでとうございます。

日頃は三井V-Netの活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

三井V-Netは、わが国が未曾有の高齢社会を迎える時代に、日本社会が活力を保ち続け、国民生活を維持・向上させていくためには、高齢者が社会活動に積極的に参加し、活躍できる環境を創り出すことが急務との認識に基づき、1996年に創設され、今年で23周年目を迎えることができました。

シニアの生き甲斐づくり支援を趣旨に設立された本事業団は、三井グループ全体の社会貢献活動へと発展、進化を遂げ、三井グループ運営会員各社（現行21社）のOBを中心としたボランティア登録会員は、1,500名（2018年3月末現在）を超え、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育の4分野において、年間延べ10,000名を超える方々がさまざまなボランティア活動に活躍されています。

東京本部では、国際交流、医療・福祉分野に部会が設立され、各部会の代表である世話人を中心に活動が実施されています。国際交流分野では、東京大学部会で第4回留学生交流会を開催し、大学、留学生から好評を得ました。また、医療福祉分野では、恒例のエリザベス・サンダース・ホームのチャリティーコンサートが12回目を迎え、収益金を関係先に寄附させて頂きました。

関西支部では、神戸大学で、「兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業（G-Navi）」との連携により、企業訪問や社会見学を通じて留学生の視野を広げる活動への支援を行っています。また、文化活動として、大阪の司馬遼太郎記念館、京都の旧



三井家下鴨別邸へボランティアを派遣している他、若年層のボランティア会員を中心に、ゴルフトーナメントやマラソン等スポーツイベントも積極的に支援しています。

中国支部では、恒例の広島平和記念公園での清掃活動が、昨年末までに延べ130回を超えました。併せて地域の外部団体とも緊密に連携を図り、地道な活動を続けています。

一方、今後の課題としては①三井V-Netの今後の方向性②新規ボランティア登録会員の拡大③運営会員会社の拡大の3点があります。

まず、三井V-Netの今後の方向性につきましては、設立後20余年が経過し、社会環境が変化しつつある中、三井ブランドの価値創造を実現するために三井V-Netの活動内容、組織体制はどうあるべきかにつき、会員会社の運営委員の皆様方と継続的に議論を深めてまいります。

一方で、定年・雇用延長に伴う三井V-Net会員各位の高齢化が進んでおり、新規ボランティア会員の拡大は喫緊の課題です。会員会社のOB会等での告知を改めて徹底するとともに、定年を迎える少し前の比較的若い世代をターゲットに、キャリア研修等の機会を活用して、現役社員にも三井V-Netの認知度アップを図ります。

運営会員会社の拡大につきましては、二木会・月曜会メンバー会社の未加入会社及び休会会社への新規加入あるいは復会の勧誘に引き続き積極的に取り組んでまいります。

三井V-Netとしては、今後ともボランティア活動の活動頻度アップと質の向上に努め、三井グループとしてのCSR活動の一翼を積極的に担うとともに、三井ブランドの更なる価値向上を目指し努力してまいります。引き続き皆様のご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

最後に、今年一年の皆様のますますのご健勝ご発展をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

## 本部（東京）

### 横浜国大部会発足 15 年を迎えて

横浜国大部会 伊藤 明彦（三井住友海上 OB）

横浜国大部会は 2003 年 11 月 11 日に発足し、今年（2018 年）10 月で 15 年が経過しました。私は 2005 年 1 月から会員としてお世話になっています。

誌面をお借りして部会の現状を報告いたします。

発足当時の部会会員数は記録によれば 20 名でしたが、現在は 66 名（男性 45 名、女性 21 名）です。

15 年の間、毎月第三木曜日（8 月を除く年 11 回）先生のご出席のもと開催してきた例会は何と 164 回に達しました。

例会を運営する世話人及び書記は一年毎に交代し、期末の例会で会員の総意で選出してきました。しかし時代の変遷につれ、後任者の選出が困難となったため、2017 年より会員を A、B、C の 3 グループに編成し、部会の運営はそのグループ毎に一年間行うように変更しました。グループの皆さんの工夫と協力により、会員年数の短い方々の活躍も生まれ活性化が図られてきています。

大変なのは会場の確保です。会場の予約受付は半年前の午前 5 時、電子登録のため、担当の方が毎月予約に取り組んでくれています。眼に見えない苦労があることは容易に想像され、会員一同感謝の気持ちを忘れておりません。



10 月例会：交流組み合わせ会議

部会是一对一交流も大変盛んです。大学から春、秋提出される交流希望者一覧リストに基づいて、組み合わせ会議を実施しています。出席会員は留学生全員が会員とマッチングできるよう強い思いで協力し、かつ積極的に受け入れております。相当数の会員は複数の留学生との交流を引き受けています。留学生と話し合い工夫することにより、交流に支障をきたさぬよう心がけています。2018 年秋には交流希望者が例年をはるかに超えて、現在交流中の留学生を含む全員での交流留学生数は 100 人を超える勢いです。新たな部会員の加入が課題となってきています。

更に各種イベントも盛んです。春、秋の新留学生を迎えた横浜みなとみらい地区での「ウェルカムウォーク」に始まり、「お茶の会」「坐禅の会」「着物の着付け教室」「日本の古典芸能への案内」「富士見登山」「工場・物流ターミナル見学」等々多岐に亘り、年間のイベント数は 15 回を超えています。

特筆すべきは 2005 年から部会員による留学生向けの講座「日本の企業システム」が大学側の正式講座科目として認知され、現在は 9 人の講師（内 6 人が部会員）が「企業発展史・商社・銀行・保険・自動車・電機・IT 産業・国際展開・人事制度・ビジネスマナー」等 14 コマの講義を 4 月から 7 月末まで実施しています。数年前からは日本人学生の受講も増え好評を得ています。

以上の諸活動は会員の留学生に対する情熱と弛



10 月例会集合写真

まぬ努力、横浜国大の先生方のご理解、三井 V-Net の歴代担当者のご支援のお陰と感謝しています。

ニュースレターをご覧いただいた皆様、三井 V-Net への入会、そして横浜国大入会をしていただき、一緒に活動できれば幸いです。お待ちしております。

## 東大部会 料理教室開催2018年7月28日

東大部会 北山 幸治 (三井住友銀行 OB)



今年も「文京区男女平等センター」のキッチンを借りて留学生のための料理教室を開催しました。荒天予報の中、留学生8名、会員5名が参加、料理にチャレンジしました。

「留学生が自分で作ることができる料理」がテーマなので、料理だけでなく、調理器具や調理方法ができるだけシンプルなメニューを心がけています。参加会員で相談し、今年のメニューは「鶏のから揚げ」「茄子のみそ炒め」「鮭缶と厚揚げの南蛮風」「炊き込みごはん」「フルーツ盛り合わせ」となりました。



まず会員が担当の料理を作り、次に白井リーダー作成の英文レシピと、会員の英訳説明を参考に留学生が料理を作りました。留学生は出身も学部もバラバラですが、チームワーク良くスムーズに料理が完成しました。

食卓では自分たちで作った料理を食べながら、会員、留学生同士の会話が弾みました。

料理はほぼ完食で、ホッとしました。

参加した留学生がどれか一品でも料理してくれればいいなと思っています。参加会員の皆さん、ご苦労様でした。

(留学生感想文)

東京大学留学生 劉 蔚成 (中国)

今回は三井 V-Net が主催した料理教室に参加して、とてもありがたい経験になりました。

イベントは外国人留学生向けで、午後一時に始まりました。最初は自己紹介で、色々な国の人と知り合いました。次にボランティアたちが料理の内容を紹介し、パンフレットも丁寧に用意されていました。主な料理は唐揚げ、焼き茄子、鯖の水煮と厚揚げ豆腐など創作日本料理でした。その後、私たちに作り方を身につけさせるため、ボランティアたち自ら料理のサンプルを作り、解説していただきました。それでも、いざ自分が料理を作る時になると、流れをよく思い出せませんでした。ボランティアたちも丁寧に指導をしてくれて、勉強になりました。

料理を作ったら、みんながテーブルを囲んで座り、用意した果物や飲み物と一緒にいただきました。食事の時間としてはちょっと早いけれど、ポ



ランティアさんと話したり、食事をしたり、とてもリラックスした雰囲気的时间になりました。その後、食器洗いを手伝ったけど、流しを使っている方がいたので、教室の片付けに回りました。余った唐揚げなどがありましたので、それを持ち帰りました。

今回のイベントの参加者はみんな熱心な人で、フレンドリーな雰囲気でした。ボランティアたちの中にとっても料理の上手な方がいて、ちょうど料理を勉強し始めた自分にとって、大変参考になりました。今回のイベントは自分にとって貴重な経験でした。

## 東大柏部会 書道教室開催 (2018年10月1日)

東大柏部会 中沢 幹雄(商船三井ロジスティクスOB)

10月1日に開催した書道教室に10名の留学生が参加し、皆さん初めて書道に触れ、出来た作品を写真に収めておりました。

漢字は古代中国で生まれ時代と共に変化、発展して来たこと、ひらがなは日本固有の字であることなどを柏市書道協会の染谷副会長から説明があり私共会員の三沢さんが通訳を致しました。

参加者の皆さんは手本の中から好きな字を選びそれを見ながら慎重に、また熱心に筆を運んでいました。私たちは、指導する先生方の通訳補助をしたり写真を撮ってあげたり楽しい中での書道教室になりました。



参加されたインドネシアからの留学生シチー・ファリダさんは、日本語を上手に話し「書道は初めて。ひ

らがなは書けるけど漢字はとても難しい。特に、スマホ、パソコンを使うことが多いので字を書くことはほとんど無いです」と言いながら書いた「虎」という字を見せてくれました。また初めての書道体験だったアメリカ人のBethanyさんも、「とても楽しかったです!家族にも作品を見せて、楽しかったって自慢しました!」とうれしい感想を言ってくれました。

今年、初めての企画として教室終了後懇親会が設けられ、そこで和気あいあいの意見交換がありました。

留学生の作品は、柏市の文化祭に展示され、また、東大柏のオープンキャンパスでも広く皆さんに見てもらえるよう展示されることになっています。



## 千葉大部会の活動と部会入会のお誘い

千葉大部会世話人 井出 袈裟繁  
(東洋エンジニアリングOB)

千葉大部会では千葉大の留学生を対象とする幾つかのプログラムをこなしています。

活動1: 来日したばかりの留学生に対して日本での生活に必要な住所異動届手続きと健康保険証取得のため区役所に出向き申請作業をするお手伝いです。日本人にとってもお役所向けの申請書類などは面倒です。必要な書類を間違いなく記入作成するという仕事のお手伝いです。世界共通言語の英語により説明、会話が求められることが多い。



2017年7月11日、狭山ホンダ工場見学

書類作成は千葉大の留学生寮で行われ、出来上がった書類は、留学生と一緒に稲毛区役所に散歩がてら出向き、区役所職員の指示に従い手続きをするお手伝いです。区役所関連以外にもう一つ求められるお手伝いは、留学生が銀行口座を開設するための書類申請です。海外からの留学生の多くは印鑑を持たないので、既定の枠内に必要なサインの記入が求められます。

活動2:「一対一交流」というプログラム。一人の留学生に一人の千葉大部会員が割り当てられて交流をすることを通じて、留学生に日本語のお手伝いのみならず、日本文化などを理解するお手伝いをする活動です。この活動は近年少し下火となっています。

活動3:「社会見学会」というプログラムで、留学生に日本企業の特徴を理解してもらうため、工場見学を含め、観光名所なども盛り込んだ一日バス旅行（千葉大主催）を企画・実施するものです。世界各地から集まった留学生の参加者は例年30~40名となり引率・交流のための千葉大部会員は10名ほどで和やかに一日バス旅行を楽しみます。

活動4: 年一回「留学生の日」として東京国立博物館が留学生のために無料開放される企画に沿って、千葉大留学生を引率して博物館に案内するプログラムです。これも例年多くの留学生が興味を持って集まり有意義な一日を過ごしています。

活動5: 近年の留学生は日本企業に大きな興味を抱く人が多く、一部の人は日本企業に就職を希望することに鑑み、留学生向けに「ワークショップ」なる名称で就職活動に関する情報提供、企業体験談、日本の企業文化・労働事情等の講義やグループディスカッションの場を提供するプログラム。授業が済んでからの夕刻二日間にわたって実施され、例年延べ20数名の各国の留学生が参加します。

以上、千葉大部会の活動につき報告させていただきましたが、実はこれを読んでいただいた新入会員の入会を切に希望するところであります。是非入会をお待ち申し上げて居ります。



2018年10月13日、「東京国立博物館」(留学生の日) 引率

## 駒大部会 招き猫発祥の地を訪ねて

駒沢大学部会 畑中 正影 (三井物産 OB)

梅雨真っ盛りの6月23日(土)、駒大部会では世田谷区の名刹であり、「招き猫」発祥の地と言われる豪徳寺とその帰り道にある商店街を散策する半日ツアーを行いました。

このイベントについては、当初6月23日(土)午後での企画でしたが、当日同時刻に大学関係のイベントが入り、一時は中止も検討しましたが、女性会員の方のアドバイスにより、実施時間を午前中に変更し内容も見直した結果、一対一交流対象留学生ほぼ全員が参加してくれました。参加者



豪徳寺境内・招き猫がお出迎え

は交換留学生 13 名（1 名ケガで欠席）、会員 5 名。

当日は、朝 9 時 20 分に駒澤大学深沢キャンパス前のバス停に集合し、バスで東急世田谷線の世田谷駅に向かい、そこで世田谷線に乗り換え、最寄り駅「宮の坂」に向かいました。

目的地である豪徳寺までは徒歩で数分住宅地沿いの道を歩き、いきなり参道に入ります。

豪徳寺は世田谷区にある曹洞宗のお寺で、招き猫発祥の地と言われており、外国人旅行者の間でも人気のあるお寺です。

豪徳寺は、1480 年に建立された「弘徳院」というお寺が 1633 年に井伊家菩提寺となり、1659 年に井伊家 2 代藩主井伊直孝の法号に因み豪徳寺と改称され、現在に至っています。

仏殿、灯籠、鐘楼は創建当時もので、敷地内には法堂、開祖堂、書院、招福堂、三重塔、地藏堂、種月園（枯山水の庭）、井伊家の墓所がある世田谷区の古刹で、幕末に暗殺された井伊直弼もここに眠っています。そして、「招き猫」伝説は、井伊家 2 代目藩主井伊直孝が鷹狩りの際、住職の愛猫「たま」の招きで落雷を逃れたという話が基になっており、この「招き猫」は幸運を招くとされ、家内安全、商売繁盛、心願成就を願い「招福殿」に赤い首輪の白い猫の置物がたくさん供えられています。

今回参加した留学生は、まずお寺の大きさに驚き、その後インスタ映えする招福殿隣の大小たく

さんの猫の置きものをスマホで撮影していました。その後、世田谷八幡宮に寄って、奉納相撲の土俵を見学し、女子留学生は「私たちも土俵に上がって良いですか?」と呟きながら全員で土俵に上がり、他では出来ぬ体験をしました。そしていよいよ商店街散策に移り、和菓子屋さんでは「招き猫の焼き印の入った」どら焼き、そして和菓子の数々を店先で食し、その後、焼き芋屋、鶏のから揚げ屋で、テイクアウトして食べ歩き、最後にもう 1 軒の和菓子屋さんで試食とお土産を購入して、予定通り午後 1 時前に駒澤大学深沢キャンパスに戻りました。

今回のイベントが午前中 3 時間程度の散策で途中から小雨の天気でしたが、世田谷の名所と日本人の原点の一つである商店街を堪能してもらえたと思います。

この短時間のイベントにいつも通りご助力を頂きました会員の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。



地元和菓子店「まほろ堂蒼月」にて

## 千葉大学医学部附属病院で会員が感謝状を授与される

本部事務局

2018 年 10 月 31 日、千葉大医学部附属病院で 2018 年度ボランティア感謝状贈呈式が行われ、三

井 V-Net 会員の田中博章様が感謝状を授与されました。

田中様は同病院で2017年8月より活動を開始され2018年7月までの1年間で444時間、月平均37時間活動され、活動開始1年後にスピード授与されたものです。院内で外来患者への案内、入院患者の検査等への搬送活動をされています。また、堪能な英語を活用し外国人の患者への対応でも活躍されています。

同病院ではボランティア活動時間が100時間、200時間、500時間、1,000時間毎（これ以降は1,000時間毎）に表彰される制度となっています。

## 第12回エリザベス・サンダース・ホーム チャリティーコンサート開催

本部事務局

11月の3連休初日、23日金曜日午前10時少し前から、紅葉に色づく、大磯聖ステパノ学園「海に見えるホール」に今年もコンサートの演奏者の皆さんが次々に集合し、ホールでは個々の楽器のチューニング、そして全体でのリハーサルが順調に進み、ひと段落した午後1時前からは鑑賞に来られた方々が続々と会場付近に集まり始め、開場時刻の13時30分過ぎにはホールは早くも満席に近い状態となりました。

ホール舞台の先には相模湾が広がり、江ノ島を望むことができる会場、この海の輝き、景色の美しさに観客の皆様は毎年感動されています。

午後2時、コンサート開演、司会の高田佳代子さんの流れるような司会進行により、スタートは三井 V-Net 八木理事長より会場の皆様においでいただいた御礼の挨拶の後、いよいよ小林洋平さん、木原健太郎さん、そして7名のストリングスの皆さんの登場、息のあった演奏が続きました。さすがに6回目となりますと、定期演奏会的な落ち着

きの中にも、昨年までとは、また一つ趣向の違った演奏を聞かせてくれました。そして、今年、日本で屈指のギタリストである千代正行さんに小林洋平さんから声をかけていただき、大変ご多忙の中、ご出演をいただくことができました。



千代正行さん

ギター、サクソ、ピアノ、そしてストリングスでのコラボ演奏は、鑑賞に来られた皆様が素敵な音楽の世界に誘い、至福のひと時を過ごさせてくれました。

途中の休憩をはさみ2時間のコンサートはあっという間に終了しましたが、プログラムラストの曲が終了した時には拍手が鳴りやまず、感動のアンコール曲を聴かせてくれました。

その後、演奏者の皆様にはホームの児童より花束が贈呈され、その可愛さに会場は大きな拍手に包まれました。そして、演奏終了後は、コンサート収益金目録を三井 V-Net 八木理事長よりエリザベス・サンダース・ホーム山田施設長にお渡しし、山田施設長からは皆様に御礼のご挨拶があり、コンサートも無事閉幕となりました。



毎年のことですが、コンサート終了後、会場を後にするお客様からは、「今年も素晴らしかった」「また来年も楽しみにしています」と次々に声をか



けていただき、演奏者の皆様と共に事務局メンバー大変うれしく思っています。感謝、感謝です。

コンサートに見えていただきましたお客様、演奏者の皆様、聖ステパノ学園職員の皆様、そして司会、会場案内等々応援いただいた V-Net 会員有志の皆様、本当にありがとうございました。

## 【演奏曲】

### 第 1 部

映画「海の上のピアニスト」より“愛を奏でて”  
(E. モリコーネ)

浜辺の歌 (成田為三)

Let It be (P. マッカートニー)

犬のいたずら

夢野久作 (小林洋平)

You Raise Me Up (R. ラヴランド)

Fly High! (木原健太郎)

ひまわりの丘で (小林洋平)

### 第 2 部

Tears in Heaven (E. クラプトン)

In My Life (J. レノン & P. マッカートニー)

シネマ (千代正行)

映画「リトルマーメイド」より“Part of Your World” (A. メンケン)

夕風の街 桜の国 (小林洋平)

赤とんぼ (山田耕筰)

いちばん大きな空へ～樹がはなしてくれたこと～  
(小林洋平)

## 関西支部 (大阪)

### 神戸大学留学生一対一交流

森下 聖一 (登録会員)

2017年12月4日に『留学生白鶴酒造本店二号蔵、資料館見学会』のイベントがあり、初めて参加させていただき、そこで現在交流している John Paul Ivo Karani さんと知り合う機会を得ました。留学生支援は初めての経験ですので、いささか緊張の連続です。



中央筆者、右側交流留学生

John Paul Ivo Karani さんは、アフリカ タンザニア出身で神戸大学の経済学部で日本の博士号を取るために留学されています。タンザニアに奥さんと小さい子供が居て単身赴任状態です。

タンザニアってどこなの。あのマサイ族 (ジャンプ力がすごくて視力がいい) がいる国です。

国立公園にキリンやシマウマ、ライオンがサバンナにいるらしい。先日パソコンで見せていただきました。彼は日本の中学生に英会話ボランティアでタンザニアのことを説明する機会があり、熱心に活動されています。彼は現在もほとんど日本語が話せないのですが、私のつたない英語での会話で、充分お互いコミュニケーションがとれています。初めてのランチタイムでビールを飲みながら、遠いアフリカからなぜ日本の神戸大学に来たのか質問したら、ソニーのウォークマンの技術に驚いて来日、Made in JAPAN に大変興味があったそうです。いろいろ話を聞くと、タンザニアの自動車は 95% 日本製で日本企業が数多く進出しているそうです。親日国です。

来日半年後、神戸大学の寮から民間のアパート



に引っ越しされましたが、電気・ガス・水道・リビングの照明等準備が全くできなくて、私に助けて欲しいと連絡がありました。やはり慣れない日本での生活は大変だなと思いました。そりゃそうですね、手続きは日本語が必要です。

サポートした時は彼に大変感謝され、ボランティア留学生を支援することにやりがいを感じました。その後も何度かランチや、私の友人のライブでビールやワインを飲みながら、彼の日常困っていることや現状の報告をしてもらって楽しく付き合っています。

留学生支援の三井 V-Net のボランティア活動は、利害関係がなく、人の役に立っているということで生き甲斐を感じており、今後も積極的に関わっていきたいと思います。



白鶴酒造 酒蔵・資料館見学

## 神戸大学留学生ホームカミングデイ

関西支部事務局

2018年10月27日の開催で第15回を迎える「神戸大学留学生ホームカミングデイ」に、三井 V-Net のボランティア会員11名とスタッフ2名を加え総勢13名で会場のある神戸大学百年記念館六甲ホールへ向かいました。

ホールでは、在学生のよさこい踊りのパフォーマンスに始まり、第15回記念特別企画として、「神戸大学における留学交流・教育を考える～第一線



留学生パフォーマンス

で活躍する卒業留学生と恩師を迎えて～」をテーマに3組、4名の卒業生と恩師がそれぞれ登壇し、在学中の思い出から現在の職場などの環境まで幅広い発表があり、最後は感謝の言葉で締めくくられていました。卒業生の言葉は、神戸大学の先生方の努力の蓄積が10年、20年と経つに従い、どれ程の成果として現れるのか、将来を垣間見る思いがしました。

その後も様々なテーマで繰り広げられる3時間に亘る充実した催しではありましたが、あっという間に終わった感がありました。参加したボランティアの方々のなかで初めて体験される方も多く、大変興味を持って楽しんでおられた様子でした。これも、毎年開催に尽力されています主催の神戸大学国際教育総合センター国際交流課の皆様のお蔭と深く感じました。

さて、ホールのスケジュールが終わり、最後は和やかにアムルナイ・ティーパーティとなります。私たち三井 V-Net のメンバーは、パーティに参加している在学生へ11月に開催の留学生交流会への広報を兼ねて参加させていただいていました。その会場の一角に、先生方や国際交流課の皆様のご支援の元、ご用意いただいたテーブルやパネルを設置させていただき、ボランティアの方々は留学生在学生とおぼしき学生に声をかけ、留学生交流会への参加を呼びかけました。お陰様で16名の在 student から参加の申込みを受け、充実したものとなりました。このように大学と連携を深めること

ができ、今年の留学生交流会へ向けて弾みをつけ、賑やかな会となることを願うばかりです。



## 韓国留学生イ・ヨンヒさんとの交流

清水 彦功 (三井住友海上 OB)

今年 2018 年 5 月から三井 V-Net の紹介で交流をスタート、現在まで月 1、2 回一対一交流しているイ・ヨンヒさんについて、紹介させていただきます。2018 年 4 月に入学した同志社大学の韓国女子留学生です。高校日本語科出身で日本語会話が可能で、グローバルコミュニケーション学部で学んでいます。特に日本の落語に興味を持っており、その他日本の伝統文化や日本人の価値観について学びたいとの希望でした。

彼女との交流は、本音で明るく楽しく会話をするように心がけており、彼女とは LINE メールも利用し、学生生活や日常生活で疑問があれば質問メールでやり取りもしております。9 月の猛烈な台風の直後には彼女から「大丈夫でしたか」とのメールが届いたことは、嬉しい



限りでした。

彼女との交流は、概ね次の 3 つのテーマで話合っています。

第 1 テーマは、日頃疑問に思ったこと。

質問の一つに、日本語会話に出てくる擬声語・擬音語 (わいわい・ぎゃーぎゃーとの違いなど) が全く理解できないとのことでしたので、辞典からよく使う擬声語・擬音語を書き出し、どのように使うのかを説明しました。

第 2 テーマは、日本の社会習慣・社会で起きている出来事。

直近の「日経新聞」を見ながら、日本で起きている社会の出来事など並びに記事の関連の話をペーパーに記載しながら説明します。

第 3 テーマは、日本の伝統文化について。

具体的に日本の風習などをテーマごとに説明し、結果、少しずつ理解を深めてもらっています。友禅染体験や習字教室にも参加希望しており、徐々に実体験を案内し習得してもらう予定です。

最近はお互いコミュニケーションも少しは深まり、同大学韓国留学生の女性友人 3 人を加え本人・私と 5 人で韓国料理を食し、和気藹々楽しい時間も持っています。

今後も彼女や友人の韓国留学生、そして他国の留学生が日本で学んでよかったと思えるような留学生活のサポートができればと思っています。

## 二色の浜ビーチクリーンアップに参加して

山本 充 (三井化学 OB)

2018 年 10 月 13 日 (土) は、最近では珍しく爽やかな秋晴れの日和となりました。

大阪と和歌山を結ぶ南海本線の二色浜駅から 15 分ほど歩きますが、台風 21 号の影響でかなりの屋根にブルーシートが張られておりました。集集場所に着きレストハウスから護岸やビーチを見

渡すと、松の木などが倒木している様子は見えず思ったほどの被害は無いようでした。

例年ですと集合場所付近で中学生が駅伝の練習をしているのですが、今回は少し遅い開催のためかちょうど「泉南地区駅伝大会」と重なっていました。



予定時間には約 300 名の参加者が集合し、グループごとに記念写真の撮影を済ませ、10 時から開会式が始まりました。小さい子供さんを連れた若い夫婦も多く、家族でボランティアを楽しむ姿が微笑ましく、和やかで明るい家庭だろうなと感心させられました。

人工ごみの拾い集めは約 40 分であっという間でした。その後に仕分け分析するのが大変で、こちらも 40 分ほど掛かりました。例年ですと、吸い殻や花火かす等が圧倒的に多いのですが、今回はペットボトルのキャップやプラスチック破片が多く見られました。これもやはり台風の影響ではないかと思います。軽いものは飛ばされ、砂に少しでも埋もれたものが残されたのでしょうか。

私たち三井 V-Net 関係は約 30 名の参加でした。見慣れない女性が一人で作業をしておられました。神戸から来たそうでいつもは須磨海岸に参加



しているとのことでした。今年は台風 25 号の翌日が開催日であったため中止となり、二色の浜に初めて参加したそうです。

全員が揃い閉会式の後、集合写真を撮り解散となりました。

この記事を読まれた方が次回には一人でも多く参加して頂き、ビーチのごみの実態を体感されますように願い、寄稿させて頂きました。

## 司馬遼太郎記念館での感想

増田 武司（登録会員）



三井 V-Net の紹介で活動を始めて約 2 年半ほど経ちます。記念館での活動は、正門での来館者のお迎え、館入り口での入館券の回収、地下展示室での監視、園芸作業、カフェコーナー（有料）での来館者のおもてなしなどです。活動は午前の方、午後の方、終日活動する方などさまざまです。

私は終日の活動で入ります。終日ですと半日は正門、半日は展示室です。正門では来館者のお迎え、入館券の購入案内、そして初めて来館された方には、簡単に館内の説明をします。展示室では展示品に触れたりしていないか、館内は撮影禁止となっていますから、写真を撮ったりしていないかの監視をします。時折、写真を撮る方や、展示品に触れる方もあり、注意をさせていただくこともあります。

活動時間は各部所とも30分で次の方と交代します。そして30分の休憩となります。この時が結構楽しい時間で、備え置かれているコーヒー、紅茶、日本茶など片手に、旅行、スポーツ、園芸、趣味、時にはちょっとお硬い話等、取りとめのない話題で場が盛り上がります。

司馬先生は世に送り出す作品の構想、執筆に当たり、6万冊余りの蔵書を取り揃えられました。その内の2万冊が展示室に飾られています。この2万冊を見るだけでも圧倒されます。

司馬先生が世に送り出す作品は、いかに史実に忠実であるべきかという強い思いの表れだと感じます。飽くなき探究心と強い情熱、そして凄まじいまでの執念が素晴らしい作品を生み出すのでしょう。

司馬作品を読まれたことのない方、記念館を訪れたことのない方にご来館いただき、実際に見ただけであれば、何かを感じ、新たな出会いがあるやもしれません。こんなことをも思いながら、活動を続けています。



## 中国支部（広島）

### 車いす介助ボランティアに参加して感じたこと

平田 一正（東芝デジタルソリューションズ現役）

6年前から8月6日に行われる平和記念式典や障がい者向けコンサートでの車いす介助ボランティアに参加しています。

平和記念式典では、要人警護の目的で道路が封鎖されるために、参拝者は約200mほどを徒歩で移動する必要があり、広島市が準備する100台の車いすで会場までの移動を介助します。

高齢で歩行が大変そうに見えても、慰霊碑まで自分の足で進むことに強い思いを持つ参拝者がおられることを知ったり、中学生や高校生の参加者が意外に多く頼もしく思えたりと、参加するまではまったく想像しなかったことがたくさんあります。毎年、参加するたびに貴重な体験となっています。



フラワーフェスティバル車いす介助で活動中の筆者(中央)

また、この活動を通して、車いすでの移動は思った以上に負担の大きなものであることを感じました。一般の歩道中には段差に加えて左右に傾斜している場所も多く、直進することが非常に困難なことが多いのです。普段の生活ではほとんど感じる事のなかったことですが、観光国際都市とし

て広島が発展するためにも、障がい者にやさしい街づくりにぜひ取り組んでほしいと願っています。



前列右端が筆者

## 広島平和記念公園清掃ボランティア活動に参加して

清信 誠也（三井生命保険現役）

休みの日は、1日中家で過ごすことも多かったのですがたまには気分転換と思い、広島平和公園清掃活動へのボランティアに参加致しました。

幼少時、両親と広島平和公園に桜の花見や、高校生や大人になってからも何かしらのイベントで行く機会がありましたが平和公園にごみが落ちているイメージはあまりありませんでした。てっきり市の職員がきちんと清掃活動しているのだらうと思っていたのでボランティア団体が定期的な活動しているのは驚きでした。実際に清掃活動をし



ていると、人の目に見える所には落ちていたごみなどなく綺麗に見えましたが、茂みの中や人の目が届かない所に明らかにそこに隠すように捨てられたごみがありとても驚きました。そ

のごみを拾いながら、心の中で私自身の仕事や私生活でも人から見られるところはきちんとするのはもちろんのこと、見られない部分もしっかりしていけないといけないなあと改めて感じています。1時間ちょっとの活動時間ではありますが自分自身を見つめ直せるきっかけとなり、とてもよい経験となっています。

## 第3回国民の休日「山の日」植樹祭に参加して

中国支部事務局

「一人1本の植林から森づくりがはじまります」のスローガンのもと、昔のようなレンゲツツジの群生地を甦らせようと挑戦が始まり3回目の植樹となります。

祝日と制定されてから毎年8月11日におこなわれている国民の休日「山の日」植樹祭に参加しました。県立もみの木森林公園から小室井山に登り、一人1本のレンゲツツジの苗木を植えるイベントです。もみの木森林公園は広島市より北に約70kmのところの位置します。主催はNPO法人ひろしま人と樹の会によるもので第3回を迎えました。



もみの木森林公園管理棟前にて開催式が終了。いよいよ登山開始、1時間30分程度をかけた小室井山頂上を目指しました。広島県庁山の会の先導によりゆっくり登りました。この日の広島市は35度



が予想されるなか、熱中症にならないよう水分補給に気をつけながらの登山です。小室井山は1,072mの山で広島市内と比べると気温が低く登りやすいと感じながら頂上へ到着。昨年、一昨年のレンゲツツジがほぼ活着しており数年後にレンゲツツジの花が咲く様子を想像しながらレンゲツツジの植林をしました。

## 2018 ハンザクラスワールド & インターナショナルチャンピオンシップ広島大会ボランティアに参加して

中国支部事務局

2018年10月12日（金）～18日（木）広島観音マリーナでアジア初となる大会が開催されました。選手約150人（うち9割は障害のある方で重度障がい者4名）が参加。ボランティア約250人の参加。ハンザクラスは、障がいのある人、ない人が一緒にレースを競い、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指します。

ハンザとは誰でも楽しめる小型ヨットで、子どもから高齢者の方、障害者の方も難しい練習などをせずに簡単に帆を操って船を走らせることができるのが特徴とのこと。ハンザは、ボートの深い位置に座るためとても安定し、操作しやすくなっています。



ちなみに、SKUD18は、小型モーターボートの補助装置を装備し、全長5.8m、横幅2.3m、重量125kgとハンザクラス別では大きい部類で、世界パラリンピックの競技種目となっています。

事前講習を5月から7月の間に1回以上を受け、バース（係留施設）支援でのリスクを理解し事故を起こさない注意点を学び、その後、実際にヨット試乗体験もしました。

大会当日は受付、会場案内をおこないました。参加選手やその同伴者の方たちへG-Morning、B-Byeと笑顔でのおもてなしをし、気持ちよく返事をしても貰え、とても和やかな空間でした。大会期間は天候にも恵まれ無事終了いたしました。障害のある人、ない人が一緒にハンディなくおこなう競技が、日本で開催されたのはとても意義あることだと感じさせてもらった大会でした。





人と人のまんなかに。

## 公益財団法人国際センターより感謝状を授与される

事務局

三井 V-Net ではご提供いただいた『書き損じなどによる未使用の日本郵政製はがき』や『未使用切手』を協力団体である公益財団法人国際センターを経て経済的に恵まれない東南アジアの家庭の子どもたちに基礎教育の機会提供のための支援金原資として役立ててきました。

このたび三井 V-Net 設立当初からの永年にわたる民際センターへの協力に対し感謝状を頂戴しました。

ボランティア会員の皆様はじめ 会員会社の現

役社員の方々、ニュースレターやホームページをご覧いただいた多くの一般の皆様のご協力にあらためて深く感謝申し上げます。皆様のご理解のもとこれからもこの活動を継続いたしたく、心温まるご支援をお願い申し上げます。



公益財団法人国際センターによる感謝状

## 物品ご提供による支援のお願い

三井V-Netでは下記の物品を随時収集しております。

ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく お知り合いにもぜひお声掛けかけ願います。

ご協力を心よりお待ちしております。。

### ご提供 いただきたい 物品

- 日本郵政製未使用（書き損じ含む）はがき
- 日本郵政製未使用切手（海外切手は不可）
- 使用済み切手（周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います）
- プリペードカード（未使用のみ）



※使用済みインクカートリッジは情勢の変化により収集を取り止めました。これまでのご協力に感謝申し上げます。

### ご提供品送付先

三井ボランティアネットワーク事業団の本部  
もしくは各支部あて

#### ■本部(東京)

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F  
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035

#### ■関西支部(大阪)

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7F  
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681

#### ■中国支部(広島)

〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 槌本ビル5F  
TEL/FAX: 082-222-5101

# 三井ボランティアネットワーク事業団 (三井V-Net) 皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、以て三井グループ全体の社会貢献とすることを主たる目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

<b>ボランティア活動会員登録票</b>		(関東地域) 03-5570-8035	
		FAX (関西地域) 06-4396-8681	
		(中国地域) 082-222-5101	
三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net) 御中 貴事業団を通じたボランティア活動への参加を申込みます。			
		記入日	西暦 年 月 日
氏名	(フリガナ)	生年月日	西暦 年 月 日
		性別	[ ]男 ・ [ ]女
住所	郵便番号 -		
自宅電話番号	- -		
自宅FAX番号	- -		
携帯電話番号	- -		
メールアドレス			
出身企業/勤務先			
以下の活動についてご希望される項目に○印を入れて下さい(複数可)			
希望する ボランティア	① [ ] 国際交流(留学生と日本語を通じての交流・文書作成の支援等)		
	② [ ] 環境保全(河川敷・海岸等の掃除、水源林地域保全活動)		
	③ [ ] 医療(病院外来の案内・図書整理・演奏活動等)		
	④ [ ] 福祉(福祉施設内の草刈・掃除、福祉団体主催イベントでのお手伝い等)		
	⑤ [ ] 文化・教育(文化施設でのお手伝い等) ※関西・中国支部のみ		
	⑥ [ ] スポーツ支援(マラソン、ゴルフ会場での支援) ※関西支部のみ		
会員登録の動機について該当項目に○印を入れて下さい(複数可)			
[ ] 出身企業の紹介 [ ] ホームページを見て [ ] ニュースレターを見て [ ] ちらしを見て			
[ ] 知人( )の紹介 [ ] その他( )			

上記入手の個人情報は、個人情報保護法の方針に従って厳重に管理し、ボランティア活動に必要な範囲内に限り使用させていただきます。

## 三井ボランティアネットワーク事業団

本 部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3階  
TEL:03-5570-2181 FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル7階  
TEL:06-4396-8680 FAX:06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 植本ビル5階  
TEL:082-222-5101 FAX:082-222-5101

ホームページからも登録していただけます。 <http://www.mv-net.com/>